

- 01** 広島におけるコンサートエンタメの現状
- 02** アリーナコンサート本数の推移
- 03** グリーンアリーナでの開催実績と展望

株式会社 夢番地
執行役員 大山 高志



01 広島におけるコンサートエンタメの現状

中国四国地区

日本で一番アリーナ公演が出来ない地区

■ 舞台セットを全て持込でアリーナツアーを開催できる会場が

中国四国地区では広島グリーンアリーナのみ

➔（舞台の大きさ・天井の高さ・重量制限等の条件が合う会場）

広島サンプラザホールではカットバージョンにて年間4公演程度

■ 四国愛媛県武道館（5,000人）・アスティとくしま（5,000人）

2025年3月あなぶきアリーナ香川（10,000人）が完成した事により

香川での公演が増加してきている。



ポイント **なぜ、アリーナ公演が出来ないのか？**

- 広島グリーンアリーナは有料興行に対し**10%以下（約36日）**の年間利用本数制限があり、基本的に18～19アーティスト（36公演～40公演）が年間使用できる上限公演数。
 - ➡ 現状、他社公演もいれて通年**10アーティスト（20公演）が公演ができていない**と想定。
- 近県でのアリーナ開催状況（2023年度）
 - ➡ マリンメッセ福岡A館・B館年間98公演（152日使用/2023年） ・ （神戸）ワールド記念ホール年間60公演
- 6割が県外からの来場者 
 - ➡ 1公演（2日）あたり約9,000人の県外からの経済効果を逃している。（平均7,500人/1日）
 - ※ 20公演分 = 3.05億円 × 20公演 = 約60億円

	県外からの来場者	移動・宿泊・食事代等		現地経費	合計想定金額
1公演（2日）あたり	9,000人	×	平均30,000円	+	3,500万円
				=	3.05億円

02 コンサート本数の推移

ポイント

公演数・動員数はコロナ禍前を超え過去最高推移

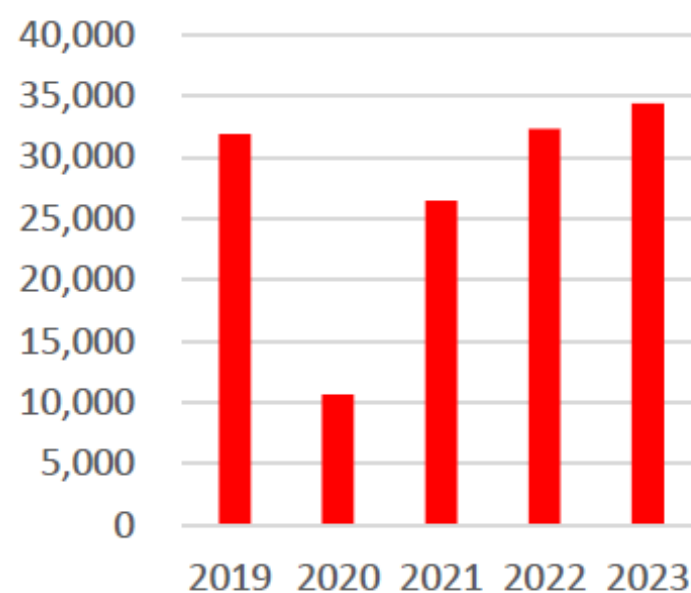
調査団体名 一般社団法人コンサートプロモーターズ協会

調査対象期間 2023年1月1日～12月31日

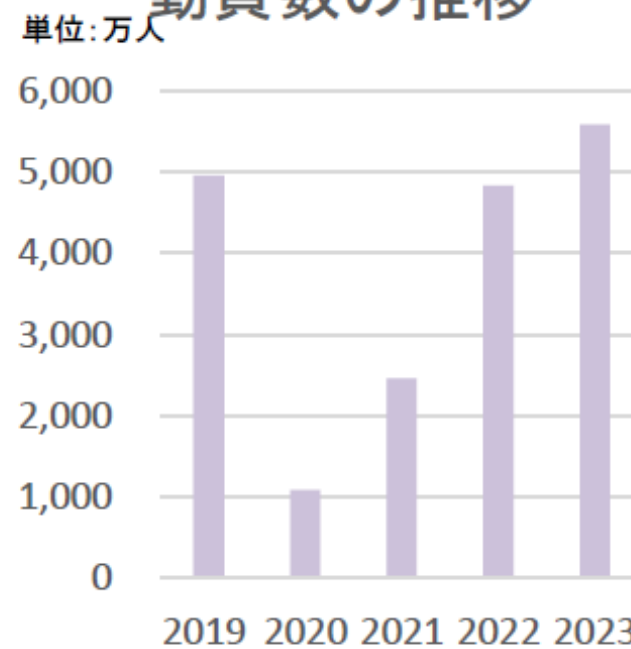
＜基礎調査サマリー＞

項目	数値	前年からの増減	前年比	2019年同期比
会員社数	76	2増	—	11増4減
総公演数	34,545	+2,207	106.8%	108.3%
総動員数	56,326,160	+8,010,607	116.6%	113.7%
総売上額	5140億0772万円	+1155億7502万円	129.0%	140.2%

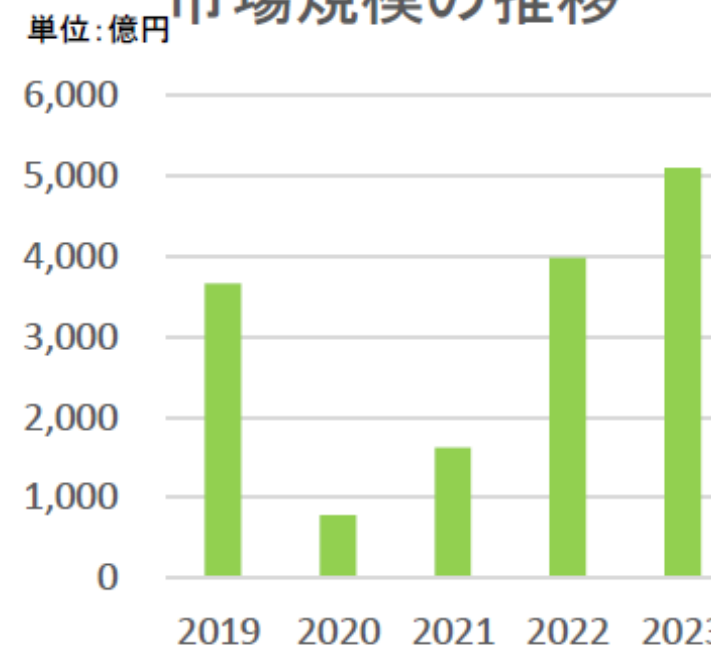
公演数の推移



動員数の推移



市場規模の推移



ポイント 中国四国エリアは全国で下から3番目の1,867公演

地域別公演数

項目	数値	前年同期比	2019年同期比
北海道	1,271	105.4%	94.3%
東北	1,980	123.0%	87.6%
関東	15,100	106.4%	122.9%
北陸信越	1,213	111.0%	90.6%
東海	2,966	102.7%	101.5%
近畿	7,650	105.8%	114.4%
中国四国	1,867	113.8%	80.8%
九州沖縄	2,364	108.7%	86.6%
海外	8	—	88.9%
オンライン	126	41.4%	—
合計	34,545	106.8%	108.3%

会場規模別公演数

ポイント 全国でアリーナ公演が2,151公演に対して広島は約40公演（約2%）

項目	数値	前年同期比	2019年同期比
スタジアム	296	127.0%	104.6%
アリーナ	2,151	109.1%	141.5%
ホール	14,318	101.2%	111.3%
ライブハウス	15,715	121.4%	101.7%
野外(※1)	493	158.5%	142.1%
オンライン	154	50.7%	—
その他(※2)	1,418	58.5%	99.8%
合計	34,545	106.8%	108.3%

※アリーナ公演エリア別本数
北海道：65公演 東北：52公演 北陸：45公演 関東：1,234公演 東海：226公演 関西：398公演 中四国：38公演 九州・沖縄：93公演

03 グリーンアリーナでの開催実績と展望

①2024年度（2024年4月～2025年3月）

- ・ 夢番地11公演（内1公演は平日開催） 44日使用（準備・本番）
- ・ キャンディープロモーション 7公演 28日使用（準備・本番）

※2024年度で夢番地 5公演（アーティスト）・キャンディープロモーション4公演（アーティスト）断っている

補足→会場が取れないとされている為、他にも数アーティストの公演を逃していると推測

②平日開催の需要

- ・ K-POPアーティスト、STARTO ENTERTAINMENT（旧ジャニーズ新会社）所属アーティストは平日開催でも十分動員があるが、利用制限があるため開催できていない現状がある。

③期待と展望

現行の年間利用制限（有料興行10%以下）では、今後もコンサートの開催本数を大きく増やすことは困難です。

広島は西日本エリアにおいて重要なマーケットであり、多くのアーティストや主催者が開催を希望しています。

今後の文化振興・経済波及効果を見据えて、利用制限の見直しをご検討いただけますよう、強くお願い申し上げます。